

琵琶湖定点定期観測結果速報(令和8年1月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和8年1月9日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町
滋賀県水産試験場池先における測定値)



調査地点図

調査結果

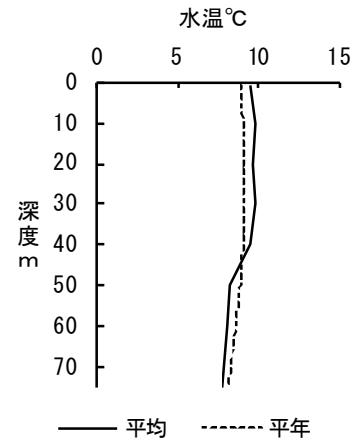
平均値 … 5地点の平均値

平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値
DO(溶存酸素濃度)は2016年～2025年(平成28年～令和7年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 1月平均値 6.1m 平年値 7.5m

2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	9.3	8.8	+0.5
10	9.7	9.0	+0.7
20	9.6	9.0	+0.6
30	9.7	9.0	+0.7
40	9.4	9.0	+0.4
50	8.3	8.8	-0.5
60	8.0	8.5	-0.5
75	7.7	8.1	-0.4



3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
12月下旬	10.4	9.5	+0.9
1月上旬	8.7	8.3	+0.4
1月中旬	8.6	7.8	+0.8

4. プランクトン沈殿量 (ml/m³)

水層 (m)	1月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0～10	6.5	4.9	+1.6
10～20	2.8	2.0	+0.8
20～40	2.1	1.7	+0.4
40～75	0.4	1.1	-0.7

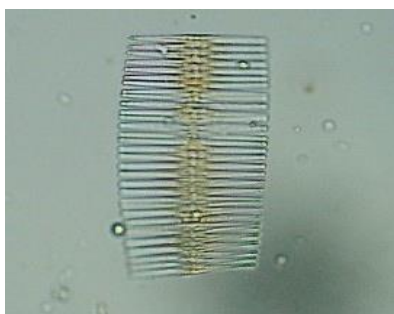
(プランクトンネットNXX14使用)

5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNXX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、地点Iでは*Volvox aureus*(ボルボックス: 緑藻)、地点IVでは*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ: 珪藻)の細胞数が最も多かった。

動物プランクトンについては、地点IとIIでは*Daphnia galeata*(カブトミジンコ: 枝角類)、地点III、IVとVではカイアシ類のノープリウス期幼生の個体数が最も多かった。



Fragilaria crotonensis



Volvox aureus



Daphnia galeata



ノープリウス期幼生

6. DO (溶存酸素濃度: mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	1月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	10.8	94.1	10.5	91.3	0.3	(+2.8)
10	10.6	93.2	10.3	89.6	0.3	(+3.6)
20	10.5	92.0	10.1	88.6	0.4	(+3.4)
30	10.4	91.9	10.1	88.5	0.3	(+3.4)
75	3.9	32.3	5.9	51.1	-2.0	(-18.8)